

第4次長岡市食育推進計画原案と修正案 比較一覧表

計画書(案) 掲載ページ	修正後 計画書(案)反映済	反映結果	原案 推進連絡会議前	検討内容
P.49	【基本方針2】 <u>ながおかの食をとりまく環境への理解を深める食育の推進</u>	修正	【基本方針2】 「食」とのつながりと理解を深める食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「つながり」という表現がわかりづらい ・例えば、国は「食べ物の循環」という表現を使っているが、食材の生産から廃棄・リサイクルまでの流れのイメージである。 ・長岡市では、郷土料理や地場産食材等を活かした食の伝承についても推進する表現がよいのではないか。
P.53	<指標> 地域で共食したいと思う人が共食する割合 *「共食」という表現は、今後の食育推進にあたり重要ワード *計画書巻末に用語集（P.87）を設け、注釈を掲載	修正無し 注釈掲載	<指標項目> 地域で共食したいと思う人が共食する割合	<ul style="list-style-type: none"> ・「共食」という言葉がわかりづらい。 ・「誰かと一緒に食べる」のような表現に変えてはどうか。 ・今後、食育を推進していくうえで、浸透させたい言葉であれば、注釈をつけてはどうか。
P.53	<指標> <u>主食・主菜・副菜の言葉も意味も知っている市民の割合</u> *計画書（P.20）にコラムで解説を掲載	追加 解説掲載		<ul style="list-style-type: none"> ・市民の理解度がわかる指標があるとよいのではないか。「主食・主菜・副菜の言葉も意味も知っている」という市民が80%もいたとの評価もある。 ・理解の指標を加える場合、意味をどこまで「理解している」のかわからないため、具体的な解説が必要。 ・「知っている」と「行動する」は違うが、行動するためには理解が必要。
P.54	<指標> <u>食品ロス問題を認知し、複数の取組を実践する市民の割合</u> *長岡市食品ロス削減計画と合わせた指標とし、取組の拡大を目指し、目標は「増加」とする。	修正	<指標項目> 食品ロス削減のため何らかの行動をしている市民の割合	<ul style="list-style-type: none"> ・国や県と比較できる内容にしてはどうか。 ・食品ロス削減のための行動を1つ以上行っているのは、すでに国や県の目標を達成しているため、2つ以上行っているとレベルをあげてみることもひとつ。
P.54	<指標> <u>学校における地場産食材に関する指導を行った回数（月平均）</u>	修正	<指標項目> 学校給食における地場産物を使用する割合（重量ベース）	<ul style="list-style-type: none"> ・食材費の高騰などの理由により、給食での地場産食材の使用割合の増加は困難な状況となっているため、見直しが必要。今後は、地場産食材に関する指導に焦点を当てた指標がよいのではないか。
P.54	<指標> <u>地域でとれた食材を選ぶ市民の割合</u> *計画書には「アンケートでは身近な場所でとれた食材で把握」と追記する。	修正	<指標項目> 身近な場所でとれた食材を選ぶ市民の割合	<ul style="list-style-type: none"> ・「身近な場所」よりも「地場産物」という言葉が浸透しているのではないか。 ・地場産という表現では、市産なのか県産なのか、どの範囲を指しているのかわかりづらい。 ・市民アンケートの内容と離れすぎてもよくない。 ・国は「地域」という表現を使っている。
P.55	<各世代におけるめざす姿> ※別紙 資料2参照			